

4 成果と課題

(1) 1年次

① 柱Ⅰ「教育課程の改善・充実」

〈取組1〉「ねらいを明確にした授業実践」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への見通しをもたせる算数的活動を設定したことにより、児童の自力解決を促すことができた。 ・意見交流の場面において説明の仕方を例示したことにより、児童が円滑に自分の考えを表現し、説明し合うことができた。 ・共通点や相違点を見出したり、比較したり、分類したりする活動を設定したことにより、児童は自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への見通しをもたせるために児童の実態に合った算数的活動の充実を図る。 ・表現力を高めるために発表の場面やまとめの場面において多くの児童が活躍できるように工夫する。併せて、ノート指導の充実を図る。

〈取組2〉『めあて』と『振り返り』の実践」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや課題を明確に示し、既習事項を活用させる場を設定することにより、児童主体の課題解決学習を図ることができた。 ・振り返りカードやノートを活用し、わかったことを書かせたことにより、学習内容を確認するとともに学びに自信をもち、学習意欲が高められた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査の結果に基づく4，5年生の教育課程の編成と継続性のある指導を行う。

〈取組3〉「授業実践の振り返り」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の年間指導計画の修正と評価の観点に基づいた教育計画の見直しができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の重点化と「振り返りカード」に基づいた授業実践と学年内教科部会の定例化を進める。

〈取組4〉「年間指導計画の作成」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・単元シラバスである算数予定表を作成したことにより、教育課程の量的質的管理が図れた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査やN R T学力検査の結果を踏まえて、教育課程の量的質的管理のために本校児童の課題解決を図る時数の工夫を施した平成27年度の年間指導計画を実践し、改善を図る。

② 柱Ⅱ「指導体制の工夫・改善」

〈取組1〉「指導体制づくり①特配教員等による教科担当制、専門性を生かした交換授業」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当制による教科指導により、教材研究の充実を図り、責任ある指導に努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当制の拡充のために指導体制を工夫する。

〈取組2〉「指導体制づくり②算数科における習熟度別指導の工夫」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストの結果に基づいて児童が自ら習熟度別コース学習のコースを選択したことにより、児童の学ぶ意欲を高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の充実のために習熟度別・課題別など、グループ分けの仕方について工夫・改善する。

〈取組 3〉「評価問題による分析」

成果	・学力検査、評価問題、レディネステストの結果を考察し、児童の実態に応じた指導体制に努めることができた。
課題	・児童の実態に応じた指導体制の工夫・改善のために評価問題の分析を行い、指導体制の改善に努める。

③ 柱Ⅲ「教員の指導力の向上」

〈取組 1〉「全教職員による研修の内容、及び方向性の共通理解」

成果	・理論研修を通して研修の方向性や取組内容を確認したことにより、共通理解・共通実践が図れた。
課題	・今年度での共通理解・共通実践を基にして、西横野小スタイルの授業の在り方を追究する。

〈取組 2〉「自己課題の明確化」

成果	・積み上げのある研究授業に努めたことにより、自己課題の再認識と改善の手立てが明らかになり、指導力の向上につながった。
課題	・自ら課題解決する児童の育成を図るために更なる積み上げのある研修に努めるとともに、取組の焦点化を図る。

〈取組 3〉「管理職等による授業参観」

成果	・人事評価制度に係る管理職による授業参観、及び面談を通して、自己課題の解決に向けた追究が図れた。
課題	・人事評価制度に係る管理職による授業参観、及び面談を通して、教師が客観的に自己課題を把握し、更なる改善を図る。

〈取組 4〉「授業研究を通じた実践の積み上げ『日常の授業改善』」

成果	・「日常の授業改善」への意識化により、柱Ⅰの取組の実践化が図れた。
課題	・実践を通して西横野小スタイルの授業を構築することにより、日常の授業改善の定着を図る。

④ 柱Ⅳ「家庭・地域との連携」

〈取組 1〉「家庭学習の手引きの配付・指導」

成果	・家庭学習の手引きを配付し、児童への指導、及び保護者に協力依頼したことにより、児童及び保護者に家庭学習「自学自習」の意義について周知できた。
課題	・「自学自習」への取組に個人差があり、今後も個別指導に努める必要がある。

〈取組 2〉「家庭学習の定着・授業で生かせる宿題の工夫」

成果	・「自学自習」への取組を通して自ら授業の予習・復習となる家庭学習に取り組む児童が増えてきた。
課題	・授業で生かせる宿題となるよう宿題の出し方を工夫・改善することにより、学びの連続性を意識した意図的・計画的な児童の学習過程の構想を図る。

〈取組 3〉「家庭との連携体制」

成果	・児童及び保護者に学習に関する啓発講演を実施したことにより、学習の仕方の改善を図ったり、学習環境の改善を促したりすることたできた。
課題	・家庭との連携体制の強化により、学習の手引きの活用、学びアップ週間の充実を図る。

(2) 2年次（重点）

① 柱Ⅰ「教育課程の改善・充実」

〈取組1〉「実態分析による本校の課題の明確化と単元の重点化」

成果	・4～6年生に年度当初（6年生は昨年度末）に標準学力検査 教研式NRTを実施し、全国学力・学習状況調査とあわせて自校分析を行った結果、本校の課題が明らかになった。結果を全職員で共有し、課題にかかわる単元等において各学年で重点的に取り組むことを共通理解することができた。
課題	・子どもの学力、学習意欲に個人差が大きい。そのため、学力検査の結果を生かし、個別支援を行ったり、はばたく群馬の指導プラン等を活用したりするなどして、わかる授業の充実をさらに図っていく。

② 柱Ⅱ「指導体制の工夫・改善」

〈取組3〉「評価アンケートによる指導体制の分析」

成果	・担当職員の綿密な準備により、児童の実態に合った授業速度・人数になり、「算数がよくわかる」と回答される指導体制がとれた。 ・担任以外の教員による指導でも、ノート書き方が統一されていることにより、児童が違和感なく授業に取り組めた。
課題	・児童の実態に合った指導体制の工夫・改善のために、継続的に評価アンケートの実施・分析を行い、指導体制の充実に努める。

③ 柱Ⅲ「教員の指導力の向上」

〈取組4〉「授業研究を通じた実践の積み上げ『日常の授業改善』」

成果	・「めあて」「見通し」「自力解決」「集団解決」「まとめ」「振り返り」の学習展開を追究する授業づくりについて共通理解を図り、校内研修での積み重ねのある授業を実践したことにより、児童が課題に対する見通しや考え方をもてたり、学び方を身につけたりすることができた。
課題	・実践の積み重ねを通して西横野小スタイルの授業を追究し、共通理解、共通実践を重ねることにより、日常の授業改善を一層進める。

④ 柱Ⅳ「家庭・地域との連携」

〈取組3〉「家庭との連携体制」

成果	・年度当初に全学年の家庭学習の手引きを保護者向けに配り、2学期には再度学年ごとの手引きを配ることで、保護者への周知徹底を図れた。児童も各学年学級の担任から家庭学習の取り組み方の指導を受け、自学自習に積極的に取り組めるようになってきた。
課題	・家庭学習や「学びアップ週間」への取組が、家庭、児童によって差が大きい。学びアップカードを工夫したり、自学自習ノートの書き方などを紹介したりして、家庭学習への関心を高めていきたい。

(3) 3年次（本年度の重点）

① 柱Ⅰ「教育課程の改善・充実」

〈取組1〉「実態分析による本校の課題の明確化と課題解決のための取組」

成果	<ul style="list-style-type: none">・4～5年生は年度当初、6年生は前年度末に標準学力検査教研式NRTを実施している。算数の偏差値平均では、昨年度と比較して6年生が+4.1、5年生が+5.4と向上しており、1年間の学力向上に向けての指導の成果が表れている。自校分析を行い、明らかになった課題を全教職員で共有し、共通理解のもと改善の取り組みに生かすことができている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・児童の学力、学習に対する取り組みに個人差が大きい。基本的な学習習慣が身に付いていない児童に対しての指導の工夫が必要である。また、学力検査の結果を生かし、課題にかかわる単元できめ細かな指導の充実を図るとともに、個別支援を行ったり、はばたく群馬の指導プラン等を活用したりするなどして、わかる授業の充実をさらに図っていく。

② 柱Ⅱ「指導体制の工夫・改善」

〈取組3〉「評価アンケートによる指導体制の分析」

成果	<ul style="list-style-type: none">・児童への評価アンケートの「算数の授業で発表をみんなに聞いてもらえる」「よくわかる」「授業中に先生から言葉をかけてもらえる」等の設問で85%以上が肯定的な回答であった。記述でも「自分に合ったコースが選べてよい」、担任以外の指導も「わかりやすくてよい」「中学に向けて練習になる」等の言葉が多数あった。「学習の用意をいつも忘れずに準備した」の回答も伸びていた。習熟度別コース学習により、学習への意欲が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none">・児童が学習への意欲的な取り組みを継続できるよう、今後も評価アンケートを実施し、児童の実態を踏まえた指導体制の充実に努める。

③ 柱Ⅲ「教員の指導力の向上」

〈取組4〉「授業研究を通じた実践の積み上げ『日常の授業の改善』」

成果	<ul style="list-style-type: none">・西横野小スタンダード（「めあて」「見通し」「自力解決」「集団解決」「まとめ」「振り返り」をキーワードとした学習展開）による授業とノート指導の共通実践により、児童がノートを活用しながら主体的に学習できるようになってきた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・西横野小スタンダードの授業をさらに追究しながら、見開き2ページのノート指導を工夫・改善し、共通理解、共通実践を重ね、本研究の成果を生かした日常の授業改善を一層進める。

④ 柱Ⅳ「家庭・地域との連携」

〈取組3〉「家庭との連携体制」

成果	<ul style="list-style-type: none">・今年度も「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、新1年生へも家庭学習の取り組みについて周知したことで、家庭学習の大切さについて理解が図れた。・「学びアップ週間」では、宿題、自主学習の取り組み時間や内容だけでなく、テレビ・ゲームなどのメディアに使った時間も記録することで、高学年の生活時間に対する意識も高められた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・児童や家庭の実態による家庭学習への取り組み方の意識の差が依然として大きい。中学校の定期試験に近い時期に行った「学びアップ週間」では、兄弟がいる家庭で家庭学習への関心が高まったという感想もあったので、中学校との連携をさらに進めていきたい。

